



交運労協ニュース No. 7

港区芝浦3-2-22 田町交通ビル3階

TEL:03-3769-6571 FAX:03-3769-6570

発行日 2025年1月22日

発行人 慶島 譲治

交運労協URL <http://www.itf-jc.jp>

政官労使が5年ぶりに参集 交運労協新年交歓会を開催

1月20日、交運労協は、都市センターホテルにおいて新年交歓会を開催した。コロナ禍もあり、実に5年ぶりの開催となった。

交歓会は慶島事務局長の司会にて開会し、冒頭、池之谷議長は、「新年を迎え、交運労協として解決しなければならない課題は山積している。コロナ後、人やモノの移動が活性化し、インバウンドの急増により、需要は拡大しているが、コロナ禍で流失した人材と、労働力人口の減少が相まって、要員不足は喫緊の課題だ。持続可能な交通運輸・観光サービス産業の維持と要員確保には、労務費をはじめとするコストの適正な価格転嫁による運賃・料金の改定を適宜、実施し、日本経済を支える社会的役割に見合った、継続的な賃上げを図り、他産業に劣らない、賃金労働条件を構築しなければならない。もう一つの大きな課題は、ライドシェアの全面解禁だ。日本のタクシー事業は、これまで地域公共交通の立場から、住民の日常における移動手段として地域の暮らしを支えてきた。一方でライドシェア推進派は、でたらめなデータを持ち出し、タクシーは供給不足だと嘘吹き、強硬に推し進めようとしている。国民に説明をせずに、進めることはあってはならない。国民の安全と雇用破壊をもたらすライドシェアの全面解禁を断固阻止し、世界に誇れるタクシーを守るため、取り組みを強化していく。最後に、政策・制度要求の実現や、問題解決を図るためには、政策集団としての政治力強化が必要だ。7月には第27回参議院選挙が実施される。さらなる政策要求の実現に向けて、交運労協の最重点候補である、議員懇の岸真紀子候補、小澤雅仁候補、そして議員懇事務局長である森屋隆候補の再選はもとより、推薦するすべての候補者の勝利に向けて、交運労協一丸となって取り組んでいく」と挨拶を行った。



池之谷 議長



連合 清水事務局長



立憲民主党 小川幹事長

続いて、来賓挨拶に移り、連合を代表して清水事務局長は、「年頭にあたり連合運動について、いくつか所見を申し述べ、挨拶とさせていただきます。1点目は昨年元旦に発生した能登

半島地震について。交運労協の加盟組織の皆様にも、カンパやボランティアなどお力添えをいただき、連合全体として、能登半島の復旧復興に力を尽くした1年だった。能登半島では今もなお復旧が進んでいない地域があり、年頭にあたり、一刻も早く被災地の復旧復興が実現し、安らかな生活を取り戻すことができるよう、皆様とともに祈念をしたい。2025春季生活闘争について。未来づくり春闘を掲げて取り組む春季生活闘争は、今年で4回目となるが、賃金も物価も上がらないという社会的な規範のルールが長い間、私達の社会にこびりついてきた。しかし、未来づくり春闘での賃上げの成果により、賃金は上がるという新たなルールが生まれつつあり、2025闘争はこの流れを巡航軌道に乗せて、その新たなルールを確固たるものにする重要な年になる。動き始めた賃金や物価を再び停滞させることのないように交運労協の皆様、そして各職場と連合が一丸となって2025春季生活闘争に取り組んでいこう」と挨拶を行った。

立憲民主党の小川幹事長は、「去年は物流の2024年問題がずいぶん不安を呼び起こしたが、皆様のご尽力により社会が落ち着いた状態にある。その陰にはどれほどの苦労と努力があろうかということ想像し、心より敬意を表したい。そしてコロナ禍でこの社会は、人と物が動いて初めて社会だということを痛感した。また、公共交通に関しては、独立採算自体が不可能・不適切だという考えを持っており、公共交通というからには、しかるべく公共的な支えがあって初めて優位な利用環境と、そこで働く方々の尊厳ある処遇が実現する。これは国民的理解を得ていくべき事柄だという強い信念を持っている。そして物流においても、これは最終的にどんなに自動化されても、どんなに技術が進んでも、最終の担い手は生身の人間であり、その方々の尊厳ある雇用環境、処遇が実現してこそ社会は存立するということを改めて確認し合いたいと思う。最後に政治について。衆議院選挙結果を受け、必ず国会に変化が起きる。必ず起こさなければならない。しかし問題は、その変化が有権者から見て国民から見て、望ましい変化だと感じていただけるか、こんな変化なら元の一強体制の方がまだマシだと有権者に厳しい評価をくだされるか。この二つに一つである。その緊張感と責任感をひしひしと感じながら、本年も、人が動き、物が動いてこそその社会であり、それを支えているのは人であり現場である、そのことを旨として党運営、国会対策、選挙対策に全力を挙げたいと思っている」と挨拶をいただいた。



国民民主党 古川代表代行



国土交通省 寺田審議官



厚生労働省 河野審議官

国民民主党の古川代表代行は、「交運労協の皆様方には地域の生活を支えていただいております。皆さんがいらっしゃるからこそ生活が回っている。一方で人材不足があり、コロナ禍後のインバウンドの需要など取り逃がしてしまっているのではとも思う。ではなぜ人材不足なのか、やはり他産業に比べ賃金が低いからだ。国土全体の強靭性を考えても交通は大動脈として地方に血液を送っていくという役割があり、しっかり守っていくというのは政治の責任だと思っている。これは与野党関係なく、このような思いというのは共有できるはずであり、政策実

現に向けて頑張って参る所存だ」と挨拶した。

国土交通省の寺田国土交通審議官は、「去年は元日に能登半島の地震があり2日には羽田空港での事故が発生した。安全・安心の重要性が大変強く再認識された1年間だった。安全・安心の確保は国土交通行政の基本中の基本であり、今年もそれに何ら変わることはない。災害への備え、そして復旧復興、事故を再発させない対策など私も全力で取り組んでいく。他にも様々な課題があり、特に昨今は地域の公共交通の問題、これは大変国民の皆さんの関心が高まっていると感じている。とりわけ運転手不足、人手不足については多くの方々に心配をおかけしている。もちろん様々な対応が必要であるが、特に待遇の改善、これは大変重要な課題だと捉えており、行政としてもこれまでの賃上げ促進のための運賃改定の弾力化のみならず、今後も継続的な取り組みが不可欠という認識のもと、政策の実施に取り組んでまいりたい。あわせて交通空白の問題についても、国土交通省では昨年、交通空白解消本部を大臣本部長として立ち上げた。来年度から3年間、交通空白解消の集中対策期間とし、予算措置も含め、地方運輸局が中心となってあらゆるツールを活用し、交通空白の解消そしてまた地域の公共交通の維持充実に努めていく」と挨拶した。

厚生労働省の河野政策立案総括審議官は、「各産別各組合におかれては、春闘の方針決定のため中央委員会の開催時期と思うが、政府においても、賃金上昇が物価上昇を安定的に上回る経済を実現することを目指している。2024春闘に続き、2025春闘においても労使で真摯な議論と交渉が行われ、力強い賃上げ機運が醸成されていくことを心から期待している。厚生労働省としても、引き続き関係府省と連携のもと、価格転嫁や生産性向上といった中小企業等の皆様が賃上げできる環境の整備に向けて支援してまいりたい」と挨拶を行った。



議員懇 近藤会長



鏡割りの様子



荻山副議長による乾杯

最後に、交運労協政策推進議員懇談会の近藤会長が、「去年の衆議院選挙で私達の仲間が本当に大きな力をいただいたことに心から感謝を申し上げたい。そして与党の過半数割れについても、国民の皆さんの1票で選んでいただいた結果であるので、全ての声をしっかりと聞いていくのが議会の役割だと思う。そして夏の参院選においても、議員懇の仲間にご協力をお願いしたい。我々は、今年も皆さんが安全・安心に働いていただけるよう、しっかりと連帯していきたい」と挨拶した。

その後、ご来賓の皆様と荻山副議長、森屋議員懇事務局長を加えた8名で鏡割りを行い、末広がりの運が開けるよう祈念した。



会場の様子



第27回参院選に立候補
する交運労協議員懇の先生方



福田副議長による中締め

荻山副議長の発声で乾杯後、今夏の第27回参議院議員選挙に立候補する、比例区の森屋隆議員、岸真紀子議員、小澤雅仁議員、選挙区の森本真治議員、牧山ひろえ議員(代理)より決意表明をいただいた。あわせて議員懇に加盟する国会議員より順次挨拶をいただいたところである。

最後に、福田副議長の中締めにより、5年ぶりの新年交歓会は盛会裏に終了した。

以上